



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、『スパークス・アクティブ・ジャパン』は、
このたび、第22期の決算を行いました。

当ファンドは、主としてスパークス・アクティブ・ジャパン・マザーファンド受益証券を通じて、日本の株式に投資し、信託財産の成長を目標に、積極的な運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

< お問い合わせ先 >

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

東京都港区港南一丁目2番70号 品川シーズンテラス

リテール・ビジネス・デベロップメント部

電話：03-6711-9200(代表)

受付時間：営業日の9時～17時

ホームページアドレス：<https://www.sparx.co.jp/>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

< 閲覧方法 >

上記URLにアクセス⇒「投資信託」より 当ファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択



見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。

交付運用報告書

スパークス・アクティブ・ジャパン

愛称 キョウソウのバトン

追加型投信／国内／株式

第22期(決算日 2026年4月27日)

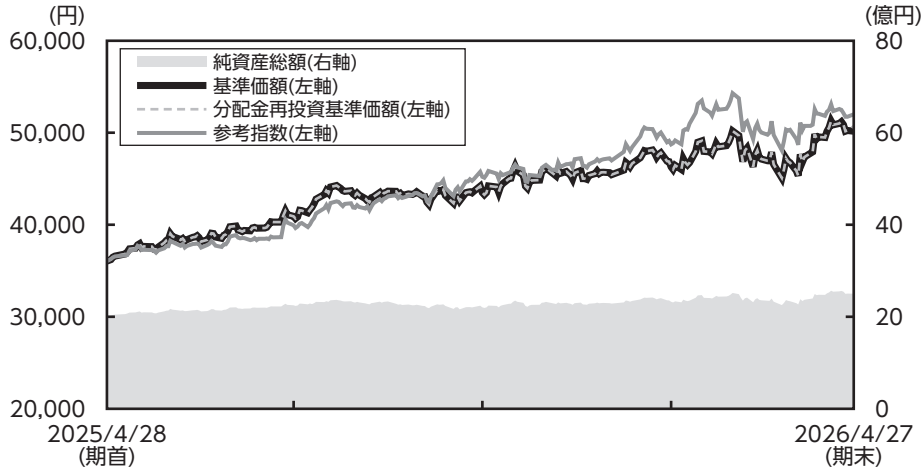
作成対象期間(2025年4月29日～2026年4月27日)

第22期末 (2026年4月27日)	
基準価額	50,166円
純資産総額	2,500百万円
第22期 (2025年4月29日～2026年4月27日)	
騰落率	40.7%
分配金合計	550円

(注) 騰落率は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

運用経過

■ 基準価額等の推移 (2025年4月29日～2026年4月27日)



第22期首：36,054円

第22期末：50,166円(既払分配金550円)

騰 落 率： 40.7%(分配金再投資ベース)

※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

※ 当ファンドにベンチマークはありません。参考指数は「TOPIX(配当込み)」です。

※ 参考指数は期首(2025年4月28日)の基準価額に合わせて指数化しております。

■ 基準価額の主な変動要因

当ファンドは、スパークス・アクティブ・ジャパン・マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）を通じて、日本の株式に投資をしております。

マザーファンドではボトムアップ・リサーチを通じて着実に利益成長の見込める企業に絞り込んで投資を行いました。期中は、保有銘柄ではセラミック基板メーカーや半導体向け素材メーカー、薬品メーカー等の株価が上昇した一方、低価格飲料メーカーやゲームメーカー、不動産運営会社等が下落しました。これらの結果、ファンドの基準価額は上昇しましたが、市場全体を下回るパフォーマンスとなりました。

■ 1万口当たりの費用明細

項 目	当 期 2025年4月29日～2026年4月27日		項目の概要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	657円 (381) (238) (38)	1.515% (0.878) (0.549) (0.088)	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ ファンドの運用、開示書類等の作成、基準価額の算出等の対価 ・ 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ・ ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	19 (19)	0.044 (0.044)	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・ 有価証券等を売買する際に発生する費用
(c) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) (印 刷 費 用)	25 (3) (22)	0.058 (0.007) (0.051)	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・ 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・ 法定書類等の作成、印刷費用
合 計	701	1.617	

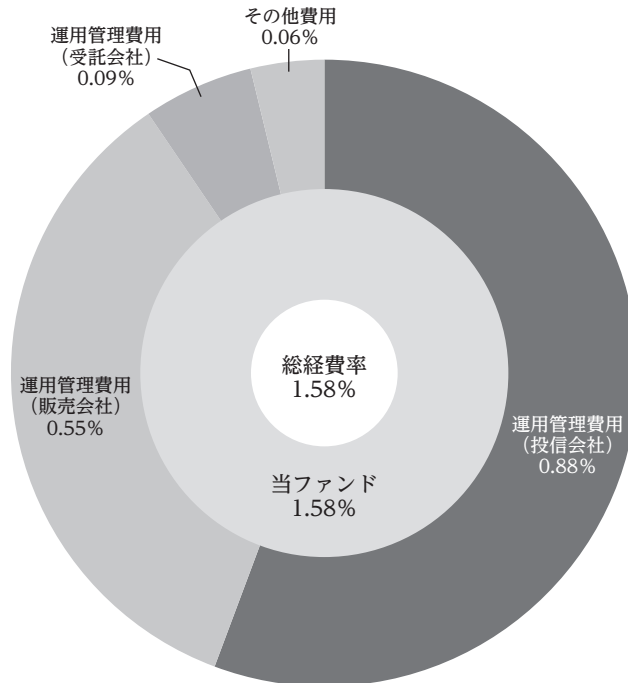
期中の平均基準価額は43,377円です。

- (注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注2) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注3) 各比率は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.58%です。



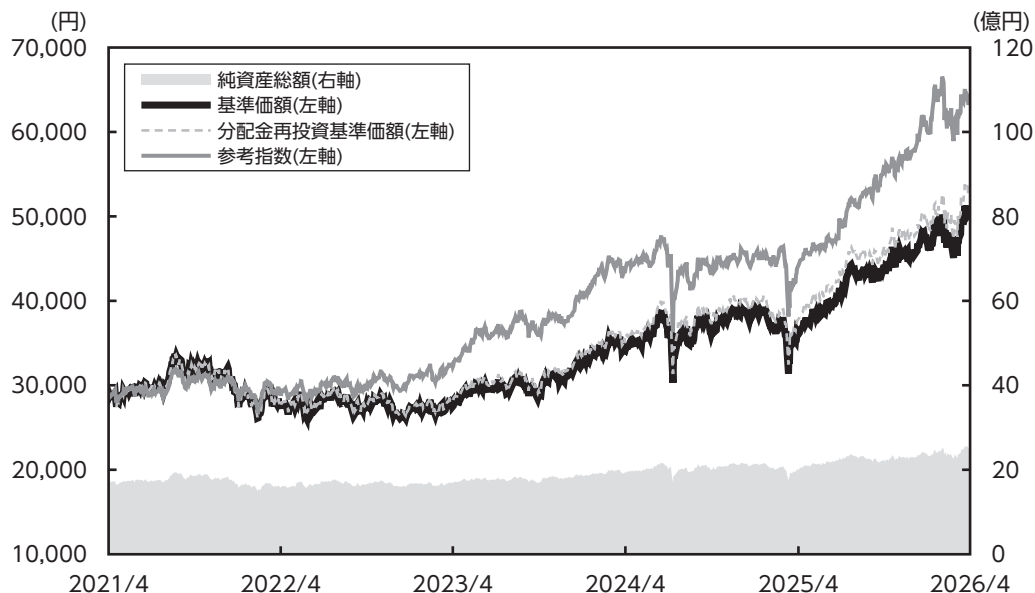
(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■ 最近5年間の基準価額等の推移 (2021年4月26日～2026年4月27日)



※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

※ 参考指数は2021年4月26日の基準価額に合わせて指数化しております。

	2021/4/26 決算日	2022/4/26 決算日	2023/4/26 決算日	2024/4/26 決算日	2025/4/28 決算日	2026/4/27 決算日
基準価額 (円)	28,976	27,457	27,496	34,198	36,054	50,166
期間分配金合計(税込み) (円)	—	300	300	420	510	550
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△4.2	1.2	25.9	6.9	40.7
参考指数騰落率 (%)	—	0.3	10.8	35.8	1.2	44.2
純資産総額 (百万円)	1,725	1,580	1,673	1,916	1,995	2,500

※ 参考指数は「TOPIX(配当込み)」です。

参考指数の詳細は、最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

■ 投資環境

当期の日本株式市場は、米国の通商政策や金融政策を巡る先行き不透明感を背景に不安定な展開で始まりましたが、押し目では買いが入りやすく、幾度も最高値を更新するなど、期を通じ総じて堅調に推移しました。

期初の2025年4月は米国の相互関税を巡る報道への先行き不透明感が和らいだことで反発し、値動きの荒い展開の中、上昇基調で始まりました。その後、5月以降は夏場にかけて半導体関連銘柄や大型株を中心に好調な決算発表が相次いだことに加え、米国株式市場の安定や円安基調も追い風となって相場は堅調に推移しました。10月から11月にかけては、日銀の早期利上げ観測の後退や高市新政権への期待を背景に、防衛・半導体などのテーマ株に海外投資家の資金が流入し、株価は再び上昇基調となりました。12月には日銀が政策金利を0.75%へ引き上げ、金融政策正常化が意識される中でも、インフレを追い風とした内需関連銘柄の堅調さを背景に中小型株が相場を支えました。2026年1月から2月は衆院解散・与党大勝による政策運営の安定期待を背景に株価が上昇し、海外投資家による継続的な買い越しも相場を下支えしました。3月から期末にかけては中東情勢の悪化が長期化するとの見方から原油価格が急騰し、物流や製造を含めたあらゆるコストやサプライチェーンへの悪影響に対する懸念から株価は上値を抑えられる形で一進一退の動きとなりました。

■ ポートフォリオ

<スパークス・アクティブ・ジャパン>

当ファンドは、マザーファンドを通じて、日本の株式に投資し、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。マザーファンドの組入比率は高水準を維持しました。

<スパークス・アクティブ・ジャパン・マザーファンド>

マザーファンドではボトムアップ・リサーチに基づく個別銘柄選択により、時価総額や業種等の銘柄属性にとらわれずにポートフォリオを構築しております。銘柄選定においては「魅力的なビジネスを安く買う」という基本方針のもと、利益成長が見込める企業を選別して投資しております。

当期は、新規にカプコンやサイバーエージェント、PILLAR等を組み入れた一方で、テレビ東京ホールディングスやサイゼリヤ、リログループ等の保有株式を全売却しました。

(主なプラス要因)

当ファンドのパフォーマンスにプラスに寄与した主な銘柄は、MARUWA、メックなどです。

それぞれの上昇要因は以下の通りです。

MARUWA：堅調なAI（人工知能）半導体投資を背景に、同社の光トランシーバー向け放熱基板に対する成長期待が高まった。

メック：生成AI向け半導体パッケージ基板の高多層化・大型化を背景に、同社の粗化・密着性向上薬品の使用量増加と高付加価値品シフトが評価された。

(主なマイナス要因)

当ファンドのパフォーマンスにマイナスに影響した主な銘柄は、ライフドリンク カンパニー、任天堂などです。

それぞれの下落要因は以下の通りです。

ライフドリンク カンパニー：大株主の売り出しによる需給懸念や茶葉価格の高騰に伴い利益率が悪化するとの見立てが広がった。

任天堂：同社の販売するゲーム機用メモリ価格が、AI半導体向けに需要が増加したことを背景に上昇し、利益率の悪化や調達不安が懸念された。

〔組入上位10銘柄〕

前期末(2025年4月28日)

	銘柄名	比率(%)
1	日立製作所	5.65
2	ライフドリンク カンパニー	5.53
3	マックス	4.66
4	トーセイ	4.11
5	MARUWA	4.05
6	パン・パンフィック・インターナショナルホールディングス	3.82
7	ソニーグループ	3.63
8	ファーストリテイリング	3.61
9	キーエンス	3.37
10	任天堂	3.22

※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)

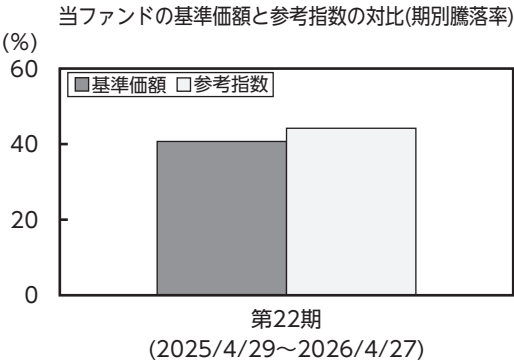
当期末(2026年4月27日)

	銘柄名	比率(%)
1	日立製作所	6.12
2	MARUWA	5.62
3	ソニーグループ	5.19
4	上村工業	4.10
5	トーセイ	3.97
6	メック	3.77
7	みずほフィナンシャルグループ	3.30
8	リクルートホールディングス	3.10
9	ファーストリテイリング	2.88
10	パン・パンフィック・インターナショナルホールディングス	2.78

※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)

■ ベンチマークとの差異

- ※ 当ファンドはベンチマークを設けておりません。
- 右記のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ※ 参考指数は、「TOPIX(配当込み)」です。



(注) 基準価額の騰落率は、分配金込みです。

■ 分配金

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して、1万口当たり550円（税込み）とさせていただきました。なお、留保益につきましては、信託財産中に留保し、当ファンドの基本方針及び今後の運用方針に基づき運用させていただきます。

〔 分配原資の内訳 〕

(単位：円 1万口当たり・税込み)

項 目	第22期 (2025年4月29日～ 2026年4月27日)
当期分配金 (対基準価額比率)	550 (1.08%)
当期の収益	550
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	40,332

- (注1) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。
- (注2) 該当欄に数値がない場合は「—」、小数点以下のみの数値の場合は「0」にて表示します。
- (注3) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

<スパークス・アクティブ・ジャパン>

マザーファンドの組入比率は、引き続き高水準を維持し、信託財産の成長を目標に運用を行います。

<スパークス・アクティブ・ジャパン・マザーファンド>

当ファンドは、個別企業の調査を通じて選び抜いた持続可能性の高い企業に投資をし、確信度を基準に積み上げ型でポートフォリオを構築しています。調査活動においては社会の大きな潮流を念頭に、過去の調査の蓄積と日々の活動から得られる「気付き」を掛け合わせることで投資仮説を生み出し、個別企業への調査を繰り返すことで具体的な投資アイデアに結び付けていきます。中長期的な観点から運用パフォーマンス向上を目指し、財務、非財務双方の観点に基づいた分析と、企業との対話を進めていきます。当ファンドは、良質な投資パフォーマンスと同時に、よりよい社会を構築する一助となるべく、良い投資先企業を選別した上で、株主として支えて行く所存です。

今後とも引き続きご愛顧を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

お知らせ

「一般社団法人投資信託協会」を「一般社団法人資産運用業協会」に変更するため、投資信託約款に所要の変更を行いました。

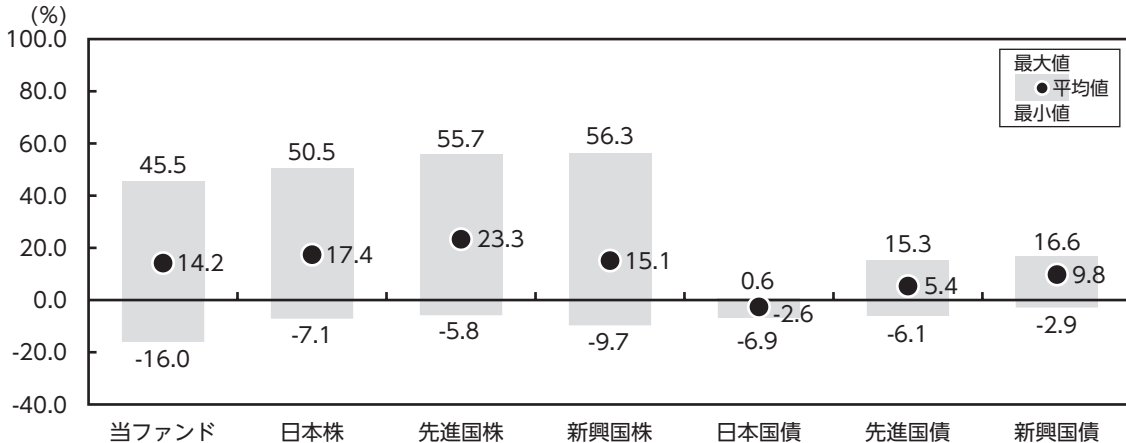
<変更適用日：2026年4月1日>

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式	
信 託 期 間	無期限（2004年4月27日設定）	
運 用 方 針	信託財産の成長を目標に、積極的な運用を行うことを基本とします。	
主 要 投 資 対 象	当ファンド	スパークス・アクティブ・ジャパン・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	スパークス・アクティブ・ジャパン・マザーファンド	金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
当ファンドの運用方法	①主としてスパークス・アクティブ・ジャパン・マザーファンド受益証券へ投資します。 ②ボトムアップ・リサーチに基づく個別銘柄選択により、時価総額や業種等の銘柄属性にとらわれず機動的に収益機会を追求します。	
分 配 方 針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子、配当収入および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないこともあります。 ・留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

(参考情報)

■ ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較 (2021年4月末～2026年3月末)



(注1) 2021年4月～2026年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注2) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注3) 当ファンドは税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

(注4) 上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※ 各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

* 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

* 詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

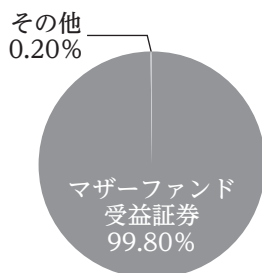
当ファンドのデータ

■ 組入資産の内容 （2026年4月27日現在）

< 組入ファンド >

ファンド名	第22期末 2026年4月27日
スパークス・アクティブ・ジャパン・マザーファンド	99.80%
組入銘柄数	1ファンド

< 資産別配分 >



< 国別配分 >



< 通貨別配分 >



※ 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

■ 純資産等

項 目	第22期末 2026年4月27日
純資産総額	2,500,680,384円
受益権総口数	498,484,326口
1万口当たり基準価額	50,166円

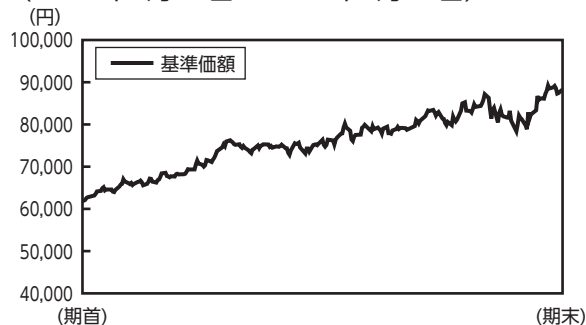
(注) 当期中における追加設定元本額は18,413,322円、同解約元本額は73,377,253円です。

■ 組入上位ファンド（銘柄）の内容 （2026年4月27日現在）

【スパークス・アクティブ・ジャパン・マザーファンド】

< 基準価額の推移 >

（2025年4月29日～2026年4月27日）



< 組入上位10銘柄 >

	銘柄名	比率(%)
1	日立製作所	6.12
2	MARUWA	5.62
3	ソニーグループ	5.19
4	上村工業	4.10
5	トーセイ	3.97
6	メック	3.77
7	みずほフィナンシャルグループ	3.30
8	リクルートホールディングス	3.10
9	ファーストリテイリング	2.88
10	パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	2.78
組入銘柄数		54銘柄

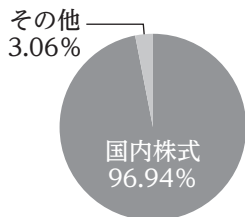
※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

< 1万口当たりの費用明細 >

項目	当期 2025年4月29日～2026年4月27日	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	33円 (33)	0.044% (0.044)
合 計	33	0.044

期中の平均基準価額は74,938円です。

< 資産別配分 >



< 国別配分 >



< 通貨別配分 >



(注1) 1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。2ページ(1万口当たりの費用明細)の項目の概要および注記をご参照ください。基準価額の推移、組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2026年4月27日現在のものです。

(注2) 各々の表、グラフにある比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、それぞれの項目を四捨五入しています。

(注3) 国別は、発行国を表示しています。

指数に関して

< 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数 >

日 本 株：東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。

TOPIXは、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、JPXはTOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

日本国債：NOMURA－BPI国債

NOMURA－BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社(以下「NFRC」といいます。)が公表している指数で、NOMURA－BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、NFRCおよびその許諾者に帰属します。NFRCは、ファンドの運用成果等に関し、一切責任ありません。

先進国債：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

新興国債：FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

FTSE新興国市場国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※ 上記指数はファクトセットより取得しています。